



石中だより

校訓 「 自主 錬磨 協働 敬愛 」

花巻市立石鳥谷中学校
令和8年度校報
第2号
令和8年5月13日

「一生(一緒・一笑)懸命はカッコいい！」

～5月12日全校朝会より～

5月2週目に入り、1年生もだいぶ中学校生活に慣れてきたころ、2年生は先輩として手本をしっかりと見せているころ、3年生はリーダー学年として、幼い心は脱ぎ捨て、石中の顔として、また自分の進路を意識しながら行動、生活しているころでしょうか。

さて、石中体育祭もいよいよ今週末に迫ってきました。昨年度は後ろのモザイク画にあるよう、雨の中での体育祭、閉会式では勝ち負けに関係なく、ノーサイドの精神で全校ひとつになった記憶に残る体育祭でした。行事やテスト等が近づくと、「一生懸命頑張れ」という言葉がよく使われます。知っている人もいると思いますが、「一生懸命」は、鎌倉時代の武士（御家人）が将軍からご褒美（ご恩）として与えられた土地を、懸命に守り抜く「一所懸命」が語源と言われています。現代では、スマートであることが良いとされ、とかく汗水たらして必死になって何かをやるのが、ダサいと言われる、考える人もいますが、一生懸命取り組む姿は周りの人に感動を与え、人の心を動かすと私は思います。

例えば、今年2月に行われたミラノコルティナ冬のオリンピック、スノーボード競技では、メダルを取った選手よりも、積極的な滑りをしてチャレンジして失敗した選手に、ゴール後、大きな拍手やライバルたちがかけより励ましあっている姿があり、一生懸命に戦うアスリートの姿をカッコいいと思い、感動し、涙する場面が見られました。また、私は野球が大好きですが、野球があまり好きではない人、興味がない人でも、甲子園の球児を見て感動するのは、選手のひたむきで一生懸命な姿をみるからだと思っています。

中学生の皆さんの場合、体育祭や合唱コンクールのような賞がかかる行事や部活動やクラブチームでの大会において、「一生懸命」になることが多いと思いますが、賞や表彰されるクラスやチームだけが素晴らかったり、頑張ったりしたわけではなく、どのクラスもどのチームも「一生懸命」に練習に取り組み、本番に臨むからこそ、キラキラ輝いて素敵に見えるのです。「一生懸命」に取り組むからこそ、カッコよく見え、悔いなくやり遂げられるのです。

そして、個人の頑張りの「一生懸命」だけでなく、まわり気が遣える、みんなと協力する、一緒に頑張る「一緒懸命」こそ素敵です。みんな喜び、讃え合い、笑顔になる、笑う、一緒に笑う、「一笑懸命」も素敵です。

今こそ、石中生にエールを送ります。「一生懸命はカッコいい！！！」

たくさんのご来校ありがとうございました 授業参観・PTA総会

4月25日（土）、約250名の保護者の皆様に来校いただき、今年度1回目の授業参観とPTA総会等を開催することができました。学年PTA等含め、子ども達の成長を支える保護者の皆様の活動を、令和8年度もどうぞよろしくお願いいたします。

親同士、親と先生方が話す機会やつながりは、情報交換や子育て、教育の考え方の共有には必要不可欠です。体育祭等の行事、部活動や大会等で顔を合わせる機会を活用し、是非積極的に子育てについてお話していきましょう。



第79回盛岡市内一周継走大会

男女とも襷つなぐ！

4月19日（日）に県営運動公園周辺コースにて、第79回盛岡市内一周継走大会が開催されました。本校からは男女それぞれエントリーし、県内中学校の代表選手たちと健脚を競い合ってきました。女子は3年ぶりにチームを組み、しっかり襷を繋ぎました。自主的な参加による特設駅伝部、チームとして参加メンバー全員でお互いをサポートしながら取り組み、当日もチームとして石中を盛り上げてくれました。

秋の地区駅伝、県中駅伝へ期待をうかがわせる走り、選手・サポートメンバー全員の力で石中駅伝のタスキ（伝統）をしっかりつなげてくれた特設駅伝部、今後も応援しています。

